

カラスやキツネの対策を考えましょう

環境衛生係Tel 74-4769

近年、カラスからの威嚇やキツネの徘徊、フンなどの相談を多く受けます。その多くは、巣の材料になるような物（手入れのされていない木や空き家など）の放置や餌となるものがあるなど、人が野生動物にとって巣を作りやすく住みやすい状況を作っていることが原因です。事前に対策をすることで防げることもありますので、習性や対策について確認し、実践するようお願いいたします。

カラス対策



カラスは春から初夏にかけて巣作りをし、卵を産んでヒナをかえします。そして、子ガラスが飛び立つまで親ガラスがそばで見守ります。この子育ての時期に人間が巣やヒナに近づこうとすると、親ガラスは子どもを守ろうとして近づく人間を威嚇して遠ざけようとしています。

カラスに巣を作らせないために

庭木の枝が生い茂っているとカラスに巣作りされやすくなります。木の枝の三つ股になったところを剪定し二股にすると巣を作られにくくなります。また、針金製のハンガーなど、巣材に使われそうなものを野外に放置しないようにしましょう。

カラスの巣を発見したときは

カラスのヒナはふ化してから1か月ほどで巣立ちます。この1か月間に巣に近づくとヒナを守ろうとする親ガラスに襲われる危険性が高くなりますが、巣立ってしまったら襲われることはなくなります。

カラスの巣は鳥獣保護管理法により勝手に撤去できず、市の許可が必要で、威嚇をされ襲われるなどの被害が

ある場合は環境衛生係へご連絡ください。ただし、巣を撤去された親ガラスがその後さらに攻撃的になる例もあるため、生活環境に影響を及ぼすような被害のある場合以外、刺激せず見守ったほうがよい場合もあります。

威嚇されないためには

巣や子ガラスに近づかないことが第一です。巣を見上げたり、窓ガラス越しやベランダ越しに巣を見下ろすと親ガラスに敵とみなされることもありまので、むやみに巣を見ることはやめましょう。カラスを遠ざけようと棒を振り回したり石を投げたりなどの行動は逆効果です。

威嚇される場合は、つばのある帽子をかぶったり傘を差すことで攻撃を防ぐことができます。また、カラスは人間の背後を狙って飛んできますので、カラスに背を向けなければ威嚇行動を避けることができます。

住宅地のキツネ対策

毎年、住宅地でキツネを見かけるとの情報が寄せられています。キツネはエキノコックス症の感染源ですが、鳥獣保護管理法により野生動物として

保護の対象となっていないため、原則駆除はできません。よって、キツネに好まれる環境をつくらないことが重要です。

住宅地に寄せ付けないために

- 餌となる残飯や生ごみ、犬や猫の餌を外に放置しない
- 生ごみが散乱しないよう、ごみステーションの管理を徹底する
- 餌付けは絶対にしない
- 大きな音を立てて追い払う
- 木酢液などキツネが嫌がるものをまく

エキノコックス症の予防方法

- 外出後は手を洗う
- キツネに触らない、近寄らない
- キツネのフンを直接触らない（処分する際は小さなスコップなどを使い、30cm程の穴を掘って埋める）
- 家庭菜園の野菜や山菜は加熱またはよく水洗いする

